

基礎プログラミングを学んで

c107043A 奥山 翔吾

基礎プログラミングの講義を始めたころは、プログラムの作成がよくわからず講義が嫌いだった。課題では、疑問点はそのままで中途半端なところでプログラムの作成をあきらめていた部分があった。しかし講義を重ねていくことで、プログラムを「中途半端なところであきらめたくない」という強い意思があらわれ、妥協をせずに完成まで導くことができた。自分の気持ちの中でも、プログラムを完成させた時の喜びをあじわってからは、プログラミングの講義が嫌いから好きに変わっていき、もっとプログラムを作成したいという気持ちになっていった。

課題でプログラム(CGI)を作成している時、必ずといっていいほどエラーが起こる。エラーを解決しないかぎり、プログラムは正常に作動せず完成することはできない。なので、エラーが起こった場所を調べ、どこがどのように間違っているのかを見つけださなければならない。間違っている場所がわかれば、その行や前後のプログラムの構成を見ながら、間違っているところを関連づけながら理論だてて間違いを訂正していく必要がある。地味な作業だが、とても重要なポイントであり、間違いを全て無くすことでプログラムは完成に近づける。プログラム作成はエラーが許されないため、こつこつと1つずつエラーを解決していかなければならない。

CGIを使ったホームページはいろいろ見てきたので、自分でも作成できるという嬉しさがあつた。しかしCGIを作成するにあたってはRubyでプログラムを作成してから実行していき、ホームページ上でチェックしていた。なのでホームページ上で正常に作動するまでには、何回ものエラーを解決しながら作成してきた。

今後、会社に就職するとホームページを作成し、CGIを使用するページを作成する機会があるかもしれない。その時もプログラムを作成していて、エラーが起こると思う。その時も、エラーの箇所を探して本文や前後の文を関連しながら、理論だててエラーを解決していきたい。日々の生活の中でも、間違いやエラーが起こる場合がある。しかしプログラム作成のように物事を理論だてて正解へと導いていけば最後には解決することが出来る。途中であきらめずに、間違い(エラー)に前向きに取り組んでいくことで何事も解決でき、結果がついてくる。間違いには必ず根拠があるので、前の出来事へ振り返りながら間違いを訂正していき次のステップへと進んでいきたい。プログラミングの講義を学んだことで、人生に役に立つことも一緒に学んだ気がした。つまりくことがあつたら、プログラミングの講義で学んだことを思い出しながら日々の生活を前向きに生きていきたい。